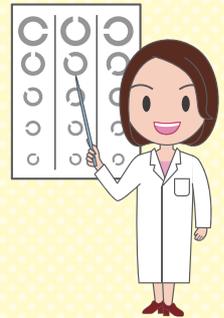


地域連携だより

診療科紹介

眼科



当院眼科では、常勤医2名(上田直子、小林ルミ)の他、京大から非常勤医(難症例の白内障手術、緑内障手術、硝子体手術…赤木忠道、金曜日外来…上田奈央子)の協力を得て診療しています。

手術件数は年間500件あまりで、白内障手術が主体で乱視の内レンズ、遠近両用の多焦点眼内レンズも使用しています。その他、緑内障、硝子体、眼瞼下垂、翼状片、霰粒腫、内反症などの手術、最近増加傾向の加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫などに対する硝子体注射を行っています。

外来では後発白内障のYAGレーザー治療、糖尿病網膜症や網膜裂孔などのレーザー光凝固術、眼瞼痙攣に対するボトックス注射も行っています。眼科単独ではない一般病院のため、内科、神経内科、精神科などと連携をとり、治療を行うことができます。

日本は超高齢化社会に進みつつありますが、視力は認知機能に影響することがわかっていきます。緑内障の割合は年齢が上がるにつれ増加します。40歳以上では20人に1人、70歳代では7〜8人に1人が緑内障と報告されています。少なくとも50歳以上になられましたら、年1回の眼科検診をお勧めします。また、高齢のご家族がいらっしゃる場合も、受診を勧めたいと思います(ごしよ)。

京都博愛会病院
眼科医長 小林 ルミ

◆京都博愛会病院

◎受付時間/午前8:30-11:30 ◎診療時間/午前9:00-12:00

	月	火	水	木	金	土
眼科(1)	上田(直)	上田(直) [予約]	上田(直)	上田(直) [予約]	上田(直) [予約]	※週交代制
眼科(2)	小林	小林	小林	小林	上田(奈)	

※土曜日…第1・第3・第5は上田(直)先生、第2・第4は小林先生

眼科ドクター自己紹介

眼科部長

上田 直子

大阪医大を卒業して、すぐに京都大学眼科に入局しました。天理病院、大津日赤病院で研修をした後、京都大学大学院に入学、学位を取りました。その後、夫の留学に伴い3人の子供を連れてアメリカでの生活を経験し、帰国後京都大学眼科助手を経て、昭和63年より当院に勤務しております。

眼科は、当初よりオープンシステムで近くの先生に手術場を利用してもらい、平成8年ごろよりずっと年間の手術件数は500件前後を推移しております。京都大学眼科の応援も得て、ここまでやってこれたのは、皆様のお蔭と感謝いたしております。今後も信頼され、真心のこもった地域医療を提供していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

眼科医長

小林 ルミ

愛知県出身で平成3年三重大学医学部卒業、京都府立医大、南丹病院、京都第二日赤、京都第一日赤病院などを経て平成25年4月から当院眼科に勤務しています。

今までの臨床経験を生かすと共に、常に新しい医学情報を取り入れながら、適切な診断と治療を提供し、丁寧な診察と説明を心がけています。手術では、白内障手術、外来小手術などを主に行っています。両眼で生活していると、片眼の視力が落ちていても気づかないことがあり、気づいた時には病気が進行していることがよくあります。緑内障を含めて、早期発見、早期治療が重要と考えています。

眼のことでお困りのことがありましたら、気軽に受診していただければと思います。よろしく願いいたします。

「わかりやすい説明を心掛けて」

下鴨中通りの上賀茂松本町で開業して今年4月で丸10年
 になりました。

開業当初より博愛会病院眼科上田先生にはお世話になって
 ます。白内障手術、黄斑浮腫に対する硝子体注射等々。最
 近は上田先生はもちろん、小林先生にも非常にお世話にな
 り、感謝しております。

当診療所は内科でいえば総合診療科で何かに特化した診
 療をしているわけではありません。患者さんは様々な症状
 を訴えられます。問口を広くして先ずは何でも診ますとい
 う入りやすく通いやすい医院を目指しています。地域から
 子供や学生が多く、3歳児検診での遠視性弱視、不同視弱
 視などのフォロー、学校検診での近視、乱視等の屈折異常の
 経過観察、コンタクトレンズの処方、コンタクトアレルギー、
 角膜障害等をチェックする毎日です。お年寄りも多く白内障、
 緑内障の診察と世間話で時間が過ぎて行きます。

患者さん本人や家族の方へのわかりやすい説明を心掛けて
 おり、敷居の高くない通いやすい医院を目指しております。
 博愛会病院の先生、スタッフの方々には御迷惑をおかけし
 ますが、今後ともよろしくお願ひ致します。



診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 4:00~ 7:00	○	○	△	○	○	△

※日曜・祝日は休診

〒603-8052 京都市北区上賀茂松本町96-4
 電話:075-724-0139 ※駐車場4台(無料)

トピックス

「新しいタイプの
 多焦点眼内レンズのご案内」

京都博愛会病院
 眼科部長
 上田 直子

白内障とは、目の中の透明なレンズ(水晶体)が徐々に濁ってくる病気です。加齢に伴うものがほとんどですが、全身疾患に伴うもの、外傷性のものなどもあります。水晶体が濁ると、まぶしく感じたり、視力が低下してきます。そのため、日常生活に不自由を感じてきた場合は手術を受ける必要があります。手術では水晶体の代わりに役割をする眼内レンズを入れます。

若いときの水晶体は、遠く、近くといろいろな距離にピントを合わせるため、水晶体の厚さが自動で変わっています。そのピント合わせの力が弱ってくるのが老眼です。通常の保険診療で入れる眼内レンズは単焦点レンズで、厚さが変わらず老眼と同じような見え方となります。

白内障手術を受けることで、メガネなしで遠くも近くも見える若返った目になりたいと誰もが思いますが、それは簡単なことではありません。

単焦点眼内レンズのほかに遠くと近くの二つにピントが合うよう工夫された多焦点眼内レンズが開発され、自由診療で手術が行われています。平成20年7月からは、一定数の症例の多焦点眼内レンズをいれた施設では先進医療として承認されています。

しかし、この従来の多焦点眼内レンズは、コントラ

スの低下や、夜間の不快な光の見え方、中間距離視力の落ち込みなどの弱点があり、日本ではあまり普及していませんでした。

遠くから近くまで、自然に見える多焦点眼内レンズを目指して開発された新しいタイプの多焦点眼内レンズが、平成29年6月末に日本でも使用可能となりました。このレンズは従来の多焦点眼内レンズに認められた弱点がほとんどありません。遠くから近く(40~50センチ)までピントが合い、自然な見え方が得られるといわれています。しかし、もっと近くの細かいものを見るためにはメガネが必要になると考えられます。40歳から50歳代くらいの見え方が得られるレンズとしていただけるとよいでしょう。年齢や個人差はありますが、見え方に慣れるまで、数か月かかることがあります。また、乱視の強い方や他の目の病気を持っておられる方など適応とならない場合があります。

博愛会病院でも、平成29年7月よりこの新しいタイプの多焦点眼内レンズを取り扱っております。通常の保険診療と異なるため、興味のある方は、診察の時にご相談下さい。

